

調査・研究評価検討会議事要旨

1. 日 時 令和元年6月12日（水） 13時30分から14時55分

2. 場 所 財務省関税中央分析所 大会議室

3. 出席者

【外部専門家】

（座長）独立行政法人 国立高等専門学校機構 茨城工業高等専門学校長
喜 多 英 治
元 一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会 調査研究部長
嵩 比 呂 志
公益財団法人 総合安全工学研究所 事業部長
中 村 順

【関税中央分析所】

所長	上 川 純 史
主任研究官	片 田 徹
第1調査研究室長	田 中 良 和
第1調査研究室研究官	竹 元 賢 治
第1調査研究室	齊 藤 崇
第2調査研究室長	落 合 克 俊
第2調査研究室監視官	山 崎 良
第2調査研究室	田 中 美帆子

（陪席者）

首席分析官	岡 澤 俊 長
分析指導官	江 端 和 清

（事務局）

総務課長	野 呂 充 孝
総務係長	齋 藤 隆

4. 議事概要

（1）関税中央分析所の調査・研究をとりまく背景等について、事務局から説明があった。

（2）調査・研究課題の評価について、大要次のような議論が行われた。

【調査研究】X線CT装置の物質識別に関する調査・研究（事前評価）

主要な空港会社に導入されているX線CT装置は、多くの貨物のスクリーニング検査を高速で行うことができ、爆発物の識別については実用化されている機器である。当該機器に薬物の識別機能を付与することができれば、税関における検

査時間の大幅な短縮と厳正な取締りの実現が期待できる。また、汎用性の調査により、異なる機種にも本研究の結果を活用することが見込まれる。

以上のことから、本研究を行うことは妥当である。

なお、本研究を進めるに際して、より効率性・有効性を高めるため、物質識別するターゲットを明確にした研究、探知の誤報を減らす研究も併せて行うことが望ましい。